

令和7年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会
(みつめなおして、よりよく③) 開催報告

- 1 趣旨 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について講演や協議を通して、CSや地域学校協働活動の質的向上を目指す県市町・学校・地域関係者に対して、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、一層の一体的推進につなげる。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 参加者 105 名（会場 53 名、オンライン 52 名）
 - (1) 「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者
 - (2) 学校運営協議会関係者、学校評議員 等
 - (3) 地域学校協働活動関係者（地域学校協働活動推進員、学習支援員、ボランティア等）
 - (4) 市町立校園教職員
 - (5) 県立学校および特別支援学校教職員
 - (6) 県および市町の社会教育委員
 - (7) 社会教育士
 - (8) 県教委事務局職員各市町「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者
- 4 日時 令和7年9月18日（木）13：30～16：30
- 5 会場 滋賀県庁 東館7階 大会議室
※対面での参加または、オンライン参加
- 6 内容
 - (1) 開会行事
 - (2) 講演
演 題：「人と学びをつなぐ～CS と地域学校協働活動の質的向上を目指して～」
講 師：船坂 礼子 氏
(瀬戸市教育委員会 CS 統括コーディネーター、文部科学省 CS マイスター)
 - (3) グループ別協議
テーマ：「地域・大人・子どものために、それぞれの立場でできること」
 - (4) 閉会行事

7 講演・グループ別協議について

講演では、瀬戸市教育委員会 CS 統括コーディネーターの船坂氏から「人と学びをつなぐ～CS と地域学校協働活動の質的向上を目指して～」として、瀬戸市において9年間かけ実践されてきたコミュニティ・スクールの取組について話があった。コミュニティ・スクールの推進していく上で、かかわる人のやりがいを探すことが重要である。保護者や地域住民が定期的に教育活動にかかわることで、学校の理解が深まり、子どもたちの笑顔にふれることで声かけの質が向上したり、他への活動の参画が促進されたりして、当事者意識が高まる。そして、地域住民の身近なかかわりによる子どもたちの自己肯定感や学習意欲の良好な変化を目の当たりにして、学校の管理職や教職員がコミュニティ・スクールにやりがいを感じ、積極的に活動していく。活動においては、できる人ができるときにできることをすることが大切である。また、CS と地域学校協働活動を一体的に推進し、学校と地域が連携・協働し、パートナーとなって子どもたちの成長を支えていくためには、まず、ビジョンを共有していくことが必要である。さらに、地域と学校が連携して教育課題の解決に取り組むための土台を築く「熟議」では、地域住民、保護者、教職員、子ども、行政など多様な立場の人々が互いの意見を尊重しながら、共通の理解と合意を形成していく対話を通して、課題よりも強みについて話すことが重要である。



講演を通して、CS と地域学校協働活動の一層の一体的推進につなげるために必要なことを知ることができ、これからの地域と学校の在り方について学びを深めることができた。

講演後、生涯学習課職員が学校運営協議会の一場面をロールプレイで表した。すでに CS の取組を導入されている方も、これから導入される方も、学校運営協議会の雰囲気を感じていただくことで、イメージを深めていただくことができた。

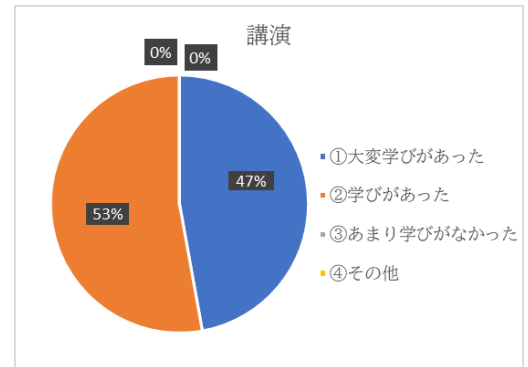
グループ別協議では、会場・オンラインともに5～6人のグループに分かれ、「地域・大人・子どものために、それぞれの立場でできること」をテーマに協議した。CS や地域学校協働活動への関わり方についてみつめなおしていただいたり、幅広い立場の方からの意見を聞くことで今後の取組に広がりをもっていただいたりする機会となった。



8 参加者のアンケートより

【講演について】

- ・コミュニティ・スクールの円滑な進め方、児童生徒の教育環境向上のための運用について学びがあった。
- ・入学説明会でCS関係者やPTAが説明する(時間を設けている)ことは、CSの周知にも繋がり、大変有効で興味深かったです。
- ・最初から上手くいかなかったても、同じビジョンを持つようになれば、上手くいくという例を示していただいたのが励みになりました。
- ・船坂さんがいきいきと話してくださっていた。やらされ感ではなく、自分の学びにつながるという点、これこそ生涯学習なんだろうなと思いました。「何とかするではなく、何とかなる」これは地域学校協働活動だけでなく、人生全てに通じるなと感じました。協力してもらうではなく、一緒に楽しむことをめざして活動していこうと思います。
- ・自分の体験から世界を広げていかれた方ということで、すごくお話が魅力的でした。「それぞれの立場から何ができるか」ということについて、今日午前中に訪問してきた学校の様子と結びついて、深く実感しました。私も、行政職員としてできることを進めていきたいと思います。
- ・課題より魅力を！良いところをだしあって、前向きに！というところが、とても響きました。できないこと、できていないことを並べないで、やってきたことやできていることを見つめ直したいと思います。前向きに、楽しめるようになると思います。
- ・「できる人ができる時にできることをやる。」肩の力がうまく抜けて素敵な言葉でした。自分が推進員を受けた時のことを思い出しました。子どもたちのために何か少しでも役にたちたいと思って受けました。子どもたちの幸せのためにできることをしていきたいと感じました。



【グループ別協議について】

- ・それぞれの地域の状況を知ることができたこと、学校や行政とは違った角度からのご苦労や思い、視点を知ること、より視野を広めて推進することに繋がりそうに思います。
- ・様々な立場の意見を聞き、地域別の特色を活かす活動の必要性を学ぶことができた。思いの共有は学校と地域の共通点を見つけるきっかけになることも学ぶことができた。
- ・教員、地域住民、保護者、推進員それぞれの立場の悩みを知ることができ、学校で工夫されていることなど知ることもできて良かったです。
- ・いろいろな立場の方の話を聞けてよかったです。立場は違っても地域と学校のつながりを考えていることは同じだと感じました。

